

【教育目標】

進んで学ぶ子ども
思いやりのある子ども
たくましい子ども



夢に向かって

～未来を奏でるきらめく感性をもつ児童～

学校だより No.9

令和6年2月5日

中央台東小学校

校長 松崎 健一

「皆さんで、元気で楽しい自分たちの中央台東小学校を創りましょう。」

今年度も、教室での学びをより深めたり広げたりするため、校外学習や外部講師による出前授業等を実施してきました。ここでは、1月16日に実施された5年生の体験型経済教育施設 Elem(エリム)での「スチューデント・シティ」について紹介します。

子どもたちは、事前学習で「仕事をする意味」「仕事選びと会社の仕組み」「価格やコスト、利益の関係」「ビジネスプラン作り」などを学校で学習します。当日は、学んだことを生かし、社内会議、仕事、ショッピング、全体ミーティングなどの活動を行い、積極的に行動することや意思決定の重要性、社会は様々な仕事を通してつながっていることなどを体験的に学んでいきます。

朝、学校を出発する5年生に、私からこんな話をしました。

「今日は、先生に頼らないようにしましょう。また、失敗を怖がらずに行動に移そう。皆さんは失敗したことをそのままにするから失敗を恐れるんです。失敗したら次はどうすれば上手くいくか考えて挑戦しなさい。そして少しでも上手くいけば良いのです。失敗から学ぶことは多いんです。失敗をただの失敗で終わらせないこと。頑張りました。」

スチューデント・シティとは？

小学校5年生が、施設内に設置された店舗・市役所などのブースで、社会人と消費者の役割を同時に体験することで、「社会は相互に支え合うことで成立している」ことなどを学ぶプログラムです。



市文化センターの東側にあります。



各社内等では計4回の会議が開かれました。企業ボランティアのアドバイスをもちに、経営・運営戦略を立てたり、収支状況を確認し修正したりと、皆で話し合い現状を見極めて対策を考え、その都度判断し活動していました。



困ったときは確認することが大事ですね。協力しながら業務に取り組む姿が見られました。

窓口対応も慣れてきたようで、大変スムーズです。



お客さんに来店してもらうためには工夫が必要です。子どもたちはアイディアを出し合い行動に移しますが、上手くいったかな？

活動の始めの方は、不安そうな顔の子どもたちでしたが、活動が進むにつれ笑顔が多くなり、声も出るようになり、主体的に行動しようとする姿があちこちでたくさん見られるようになりました。将来の自分はどうありたいかなど考えさせるキャリア教育の一つとして、有意義な時間になったと思います。

また、5年生の保護者12名の方に、ボランティアとして一日を通してお手伝いいただきました。子どもたちの学びを支えていただきありがとうございます。

学校評価へのご協力ありがとうございました

今年度の学校の取組を保護者の皆さんに評価いただきました。ご回答ありがとうございました。詳細については、後日改めてお便りにして配付しますのでもう少しお待ちください。

さて、回答いただいたほとんどの項目で90%を超える肯定的評価となりました。本校での教育活動にご理解いただけていること大変嬉しく思います。今後ともよろしくお願いします。

ただ課題も見られます。「子どもは進んで学習に取り組んでいる」の項目が、唯一70%台となっています。子どもたちの自己評価「進んで学習している」「毎日、家庭での学習に取り組んでいる」の項目でも他の項目より低い傾向が出ています。全国学力・学習状況調査(6年生)やふくしま学力調査(4・5・6年生)の各教科の平均点、各教科の単元テスト(全学年)の平均点は、各学年とも全国の平均点を大きく上回ってはいるのですが、学習への取り組み方には大きな課題があるようです。点数は取れていますが“やらされている学習”になっていないかということです。学習指導要領には、育成すべき資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力など」「学びに向かう力、人間性など」の3つの柱で整理され、このような資質・能力をバランスよく育むことが示されています。本校の課題は、「学びに向かう力、人間性など」に関わる“主体性”をさらに育むことだと改めて感じました。本校の子どもたちにとって、学校がどのような学びの環境であればよいのかを考えていきたいと思っています。



学校における働き方改革へご理解ください。

1月から2月にかかるこの時期、各学校では来年度の学校教育をどう進めるべきか連日話し合いをしています。今年度の全ての教育活動についてを振り返り、成果と課題を整理して来年度の1年間の計画を立てるのです。そこで大きな課題となるのが“学校における働き方改革”です。

県や市では、教職員の勤務時間の上限について、1ヶ月の時間外勤務を45時間以内、年間で360時間以内を上限の目安時間としました。これは持続可能で効果的な教育活動を行うためには先生方の健康が第一であり、子どもたちと元気に向き合えるようにするためです。つまり“学校における働き方改革”の目的は、教師のこれまでの働き方を見直し、自らの授業力を磨くとともに、日々の生活の質や、教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子どもたちにより良い教育を存分に行うことができるようにすることです。

ところが、本校の先生方は、5類扱いとなったコロナ後の今年度も、朝早くから夕方（夜）遅くまで休憩時間もとらずに時間に追われながら働き続けているのです。1ヶ月の時間外勤務が、45時間を越えてしまう先生方もいます。決して先生方の処理能力が低いわけではありません。やらなくてはいけないことが増えているのです。

ご承知のとおりこれは全国の学校が抱えている喫緊の課題でもあります。昨年8月には、『文部科学大臣メッセージ～子供たちのための学校の働き方改革 できることを直ちに、一緒に～』が出されました。ここにも示されていますが、思い切った精選や見直し・改善が今こそ必要であると考えます。本来の目的を達成するにあたり本当に必要なのかどうか、取り巻く社会の変化に合った方法となっているのかどうかを検討していきます。

つきましては、今年度の反省をもとに、来年度は子どもたちの主体性を育む教育活動に重点を置くとともに、教師が教師でなければできない業務に集中できるよう計画を立て直していきます。今後、何をどのように変えていくのかは、学校だより等で説明していきますので、ご理解いただければと思います。よろしくお願いします。

現在、学校で検討していること

- ① 授業時数の見直し
 - ・ 標準授業時数を大幅に上回らないように。
 - ・ 各教科において、指導するに十分な時数が確保できるように。
- ② 学校行事の精選
学校行事をコロナ禍以前と同様に再開することを望む声もあるが、行事のねらいや子どもたちの状況を踏まえて、廃止・統合や縮小、時間の短縮などを考える必要がある。
- ③ 通知票の在り方
 - ・ 学期ごとの3回から、9月・3月の2回でも通知票の目的は達成できるのではないか。
 - ・ 例年11月末に行っていた個別懇談は、7月の方がより効果的ではないか。

これまで学校ではどんな働き方改革に取り組んできたのですか？

学校単独で工夫することもあります。いわき市教育委員会や県教育委員会で進めるものもありますので、主なものを書き出してみます。

【学校では】

- 会議の精選と会議資料のデジタル化（ペーパーレス）
- 行事内容の縮小
- 校務分担の見直し
- 時間外勤務の見える化（月ごとの超過時間をチェックし意識化を図る）
- ノー残業デーの実施（毎週水曜日は残って仕事をしない日とする。）

【いわき市教育委員会では】

- 校務支援システムの導入 → 配当されている職員PCで事務整理
- 留守番電話の効果的な運用
- 長期休業中の閉庁日の設定
- 人的配置によるサポート
 - ・ ICTサポーター
 - ・ 学校司書
 - ・ 支援員
 - ・ スクールカウンセラー

【県教育委員会では】

- 人的配置によるサポート
 - ・ ふくしま外国語推進リーダー
 - ・ スクールサポートスタッフ
 - ・ サポートティーチャー（学習と読書）

